

# HOTOKE TO KAWA



▲早朝のガンジス川で沐浴する人々



▲東大寺・盧舎那仏



▲弥勒磨崖仏(奈良県宇陀川の対岸)

2018.04.05

石尾年光

# 目 次

---

## こうしてブツダの教えは変容した

- はじめに
  - 論点1 「釈迦の仏教」から大乘仏教へ
  - 論点2 さまざまな大乘の教え
  - 論点3 川と仏のかかわり
  - 論点4 大乘仏教はどこへ向かうか
-

## ■基本的なスタンス

- 日本仏教にはたくさんの宗派がある。
- 日本に伝わっているのは大乘仏教。
- 歴史的視点で見ると、大乘仏教は本来の釈迦の教えとは異なる別個の宗教。
- そのお経(宗派)によって救われる人が一人でもいたら、それは正しい教え。

## ■仏教とは何か

- 三宝、すなわち「仏・法・僧」という三つの要素がそろった宗教活動。

☞「仏(ブツ)」: 釈迦

⇒釈迦という人物を自分たちの生きる拠り所として信賴すること。

☞「法(ダンマ)」: 釈迦が説いた教え

⇒釈迦の教えをベースとして自己の生活を組み立てていくということ。

☞「僧(サンガ)」: 修行の組織

⇒四人以上の比丘(男性のお坊さん)、あるいは四人以上の比丘尼(女性のお坊さん)のグループ

- すべての人を一人残らず幸せにするために存在。

## ■大乘仏教は、本来の釈迦の教えとは異なる宗教

		「釈迦の仏教」	「部派仏教(小乗仏教)」	「大乘仏教」
教えの特徴		●出家して特別な修行に励んだ者だけが悟りを開くことができる		●在家のままでも悟りに近づくことができる
目的	目標	●(自己)解脱 ⇒出家者だけ	●従来の釈迦の教えを守る保守派	●(衆生)救済 ⇒すべての信者
	ゴール	●「涅槃」に到達すること ⇒阿羅漢(聖者)になる	●釈迦の教えの解釈の違いによってグループ(部派)が多数成立	●「涅槃」に到達すること ⇒ブッタになること(成仏)
手段		●自力による修行 ⇒ <b>自分の力で道を切り開く</b>	●自分達の正当性を主張しながらも、自分達以外の部派の存在も承認 ⇒例えば、政党内の派閥が造られた状況のイメージ	●如来(仏)への信仰 ⇒ <b>外部の力を救いの拠り所</b>
経典		●法句経、阿含経など釈迦自身の言葉		●般若経、法華経、阿弥陀経など後世作られた経
備考				●最大のネック ⇒実際にはブッタと会えないこと

\*涅槃：自分の心の中の煩悩をすべて断ち切ること。同時にその結果として、二度とこの世に生まれ変わらないこと。

\*解脱：煩悩から解き放たれること。

\*ブッタ：釈迦が悟りを開いたあとの尊称。それ以前の状態を菩薩という。

## ■ 釈迦は何を悟ったか

### 十二支縁起(じゅうにしえんぎ)

①無明(むみょう)	人間の根本煩惱。生存本能。無知。
②行(ぎょう)	生活行為。意思作用。業が生み出される。
③識(しき)	認識作用。
④名色(みょうしき)	精神的な存在と物質的な存在。認識の対象となるもの。
⑤六処(ろくしょ)	眼・耳・鼻・舌・身・意の六つの感覚器官。
⑥触(そく)	六つの感覚器官が感受対象に触れること。
⑦受(じゆ)	感受作用。
⑧愛(あい)	渴愛。本能的な欲望。
⑨取(しゆ)	執着。
⑩有(う)	生存。
⑪生(しょう)	誕生。
⑫老死(ろうし)	老いて死ぬという耐えがたい苦悩。

### 四諦八正道

(しだいはっしょうどう)

①苦諦(くたい)  
この世は一切皆苦であるという真理

②集諦(じつたい)  
苦の原因は煩惱であるという真理

③滅諦(めつたい)  
煩惱を消滅させれば苦が消えるという真理

④道諦(どうたい)  
煩惱を消滅させるための八つの道

①正見(しょうけん)  
正しいものの見方。

②正思惟(しょうしゆい)  
正しい考えを持つ。

③正語(しょうご)  
正しい言葉を語る。

④正業(しょうごう)  
正しい行いをする。

⑤正命(しょうみょう)  
正しい生活をする。

⑥正精進(しょうしょうじん)  
正しい努力をする。

⑦正念(しょうねん)  
正しい自覚を持つ。

⑧正定(しょうじょう)  
正しい瞑想をする。

■「釈迦の仏教」を否定した経典

	「釈迦の仏法」	「般若経」	「釈迦の仏法」から見た相違点
教えの特徴	●出家して特別な修行に励んだ者だけが悟りを開くことができる	●すべての人は過去においてすでにブッタと会って、誓いを立てている(ブツダ候補生)	★釈迦の仏教を否定
目的	●悟りを開いて涅槃に到達する	●悟りを開いてブツダになる	★ブツダより下の阿羅漢どまり
悟るための方法	●厳しい出家修行 ⇒修行によって煩惱を断ち切り、輪廻を止める	●日常の善行【菩薩乗】 ⇒善行(業)がブツダになるためのエネルギーに使える	★悟りための方法の変更 ⇒例えば、コンビニのポイントカード
「空」の概念	●この世のものは、様々な要素の寄せ集め(業の因果則)で作られた架空の存在で、実際には存在しない虚像	●人智を超えた <b>神秘の力、超越的な法則</b> ⇒業の因果則の裏に隠された、より上位のシステム	★「業の因果則」の変更
ブツダになるための修行	●ブツダを目指すことはありえない ⇒現世にはブツダは一人。ブツダ滅後、何十億年という長いブツダ不在期、その後別のブツダが現れる。	●「 <b>六波羅蜜</b> 」の六つの行為 ●「 <b>般若経</b> 」を讃えること ⇒経典＝ブツダの本体	★「般若経」それ自体が不思議な力をもった「呪文(マントラ)」

\*六波羅蜜：布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智恵

■「般若経」の進化形

	「釈迦の仏法」	「般若経」	「法華経」
教えの特徴	●出家して特別な修行に励んだ者だけが悟りを開くことができる	●すべての人は過去においてすでにブッタと会って、誓いを立てている(ブッタ候補生)【三乗思想】	●すべての人は平等にブッタになることが可能である(衆生成仏) 【一乗仏】 ●「久遠実成」
信仰の対象	●釈迦	●「般若経」	●「法華経」
目的	●悟りを開いて涅槃に到達する	●悟りを開いてブッタになる	●悟りを開いてブッタになる
悟るための方法	●厳しい出家修行 ⇒修行によって煩惱を断ち切り、輪廻を止める	●日常の善行⇒善行(業)がブッタになるためのエネルギーに使える	●日常の善行
「空」の概念	●この世のものは、様々な要素の寄せ集め(業の因果則)で作られた架空の存在で、実際には存在しない虚像	●人智を超えた神秘の力、超越的な法則 ⇒業の因果則の裏に隠された、より上位のシステム	●重視しない ⇒経典自身が持つパワーを絶対的なもの、理屈を超えた不可思議なものとして位置付けたことで、「空」の概念を飛び越えた
ブッタになるための修行	●ブッタを目指すことはありえない ⇒現世にはブッタは一人。ブッタ滅後、何十億年という長いブッタ不在期、その後別のブッタが現れる。	●「六波羅蜜」の六つの行為 ●「般若経」を讃えること ⇒経典＝ブッタの本体	●仏塔供養 ●「法華経」を崇めること ⇒「お経」そのものにパワーがある

\*三乗思想：声聞乗・独覺(縁覺)乗・菩薩乗。←すべての人が平等にブッタになれるとは考えていなかった。

\*久遠実成：釈迦は永遠の過去から悟りを開いたブッタとして存在していて、じつは死んではおらず、私たちのまわりに常に存在している<sup>4</sup>

■目的が「悟り」から「救われること」に変容

	「釈迦の仏法」	「浄土教」	「釈迦の仏法」から見た相違点
教えの特徴	●出家して特別な修行に励んだ者だけが悟りを開くことができる	●「阿弥陀仏がいる極楽浄土へと往生する」ことを説く教え ⇒すべての人は、まだ菩薩になっておらず、 <b>これから</b> ブツダと出会い菩薩になる	★釈迦よりも阿弥陀如来の方が立派な存在と捉える
信仰の対象	●釈迦	●阿弥陀如来	★釈迦が <b>直接の信仰の対象にはなっていない</b>
目的	●悟りを開いて涅槃に到達する	●悟りを開いてブツダになる	★「極楽浄土に往生すること」を最終目標とするように変容
悟るための方法	●厳しい出家修行 ⇒修行によって煩惱を断ち切り、輪廻を止める	●「南無阿弥陀仏」という言葉を称える ⇒ <b>他力本願*</b>	★「般若経」や「法華経」よりも、はるかに簡単かつスピーディーにブツダになる方法を示した
基本とする世界観	●この世のものは、様々な要素の寄せ集め（業の因果則）で作られた架空の存在で、実際には存在しない虚像	●無限の多世界が存在 ⇒この世界の外側に別の世界が存在し、そこにブツダがいる	★阿弥陀如来の住む極楽浄土が理想世界
ブツダになるための修行	●ブツダを目指すことはありえない ⇒現世にはブツダは一人。ブツダ滅後、何十億年という長いブツダ不在期、その後別のブツダが現れる。	●浄土へ行くための修行は一切必要ない ⇒死んだ後に阿弥陀が浄土に連れて行ってくれる	★修行の必要性を否定
根本経典		●「無量寿経」「観無量寿経」「阿弥陀経」（浄土三部経）	

\*極楽浄土の存在を本気で信じれば、死ぬのが怖くなくなる(?)

■「一即多・多即一」で表現される世界観

	「釈迦の仏法」	「華嚴経」	「(真言)密教」
教えの特徴	●出家して特別な修行に励んだ者だけが悟りを開くことができる	●「毘盧遮那仏は宇宙の真理である」と説く教え ⇒全てのものはブツダという全宇宙の中に抱かれながら生きている	●大日如来が秘密のものとして修行の進んだ人にだけ説いた教え ⇒ <b>教えを一般には公開しない</b>
信仰の対象	●釈迦	●毘盧遮那仏	●大日如来(=毘盧遮那仏)
目的	●悟りを開いて涅槃に到達する	●悟りを開いてブツダになる	● <b>即身成仏</b>
悟るための方法	●厳しい出家修行 ⇒修行によって煩惱を断ち切り、輪廻を止める	●ほとんど説かれていない ⇒奈良時代以降に衰退	●「今ある自分が仏である」ということに気づき、実感すること ⇒ <b>悟りの問題は解決済み</b> →現世利益を謳う実利的な仏教へ
基とする世界観	●この世のものは、様々な要素の寄せ集め(業の因果則)で作られた架空の存在で、実際には存在しない虚像	●宇宙には様々なブツダが存在するが、それらは「毘盧遮那仏」という一人のブツダにすべて収束される ⇒ <b>中央主権国家体制の構造と同じ</b>	●宇宙には様々なブツダが存在するが、それらは「大日如来」という一人のブツダにすべて収束される
ブツダになるための修行	●ブツダを目指すことはありえない ⇒現世にはブツダは一人。ブツダ滅後、何十億年という長いブツダ不在期、その後別のブツダが現れる。	●具体的に何をすべきかについて、明確に示されていない。	●三密加持の行 ⇒身密(印を手で結ぶ)・口密(真言をととなえ)・意密(宇宙の真理を心に思い描く)
根本経典			●「大日経」「金剛頂経」

\*一即多・多即一：一微塵の中には無限の宇宙が存在して、同時に無限の宇宙は一微塵と同じである。

\*即身成仏：生きたまま仏の境地に至ること。

# 論点3：川と仏のかかわり

## ■ 釈迦の時代には

●ブッダの時代、ガンジス川は後にヒンズー教に展開するバラモン教の聖地。ヒンズー教徒は一生に一度は、この地（ヴァーラーナシー）で聖なる大河に身を浸したいと願う。

●ブッダは「もし沐浴によって清められるのであれば、川に住む魚が最も徳がたかいということになる」といい、この習慣には否定的。

●バラモン教は厳しい階級制度の上に成立し、様々な祭礼を重視した宗教で、「身分は関係ない。正しい行いこそ解脱への道だ」と説くブッダの思想とは根本的に異なっていた。



▲早朝のガンジス川で沐浴する人々

## ■ 日本には

●宇智川磨崖仏（奈良時代・国史跡）：宇智川の岸壁に「大般若経」の経文と観音菩薩が刻まれている。

●弥勒磨崖仏（鎌倉時代・国史跡）：宇陀川の対岸に位置する高さ約30mの大岩壁に刻まれており、石仏の高さは10mを超える。大野寺の縁起によれば、後鳥羽上皇は自分や他の結縁者の名前を記した願文を像の中に収めたとある。



▲宇智川磨崖仏(奈良県宇智川の左岸)



▲弥勒磨崖仏(奈良県宇陀川の対岸)

## ■ 釈迦が説いた教えには

●「人は此岸（しがん）では真の幸せになれないから、彼岸（ひがん）に渡れ」

・此岸：自分がいる方。凡夫の世界(煩惱にあふれた世界)

・彼岸：向こう岸。仏の世界(煩惱の火が消えた、涅槃の世界)

●「三途川（さんずのかわ）」

・此岸(現世)と彼岸(あの世)と分ける境目があるとされる川。

・三途川は「金光明経(大乘経典の一つ)」に由来し、餓鬼道・畜生道・地獄道を意味する。



▲土佐光信画「十王図」にある三途川

## ■ 日本人のメンタリティには

●「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」（方丈記）

・鴨長明が感じた無常観

・流れる河の水が二度と戻らないことを見、「無常」という言葉に重ね合わせている。

●毘盧遮那仏は宇宙の真理

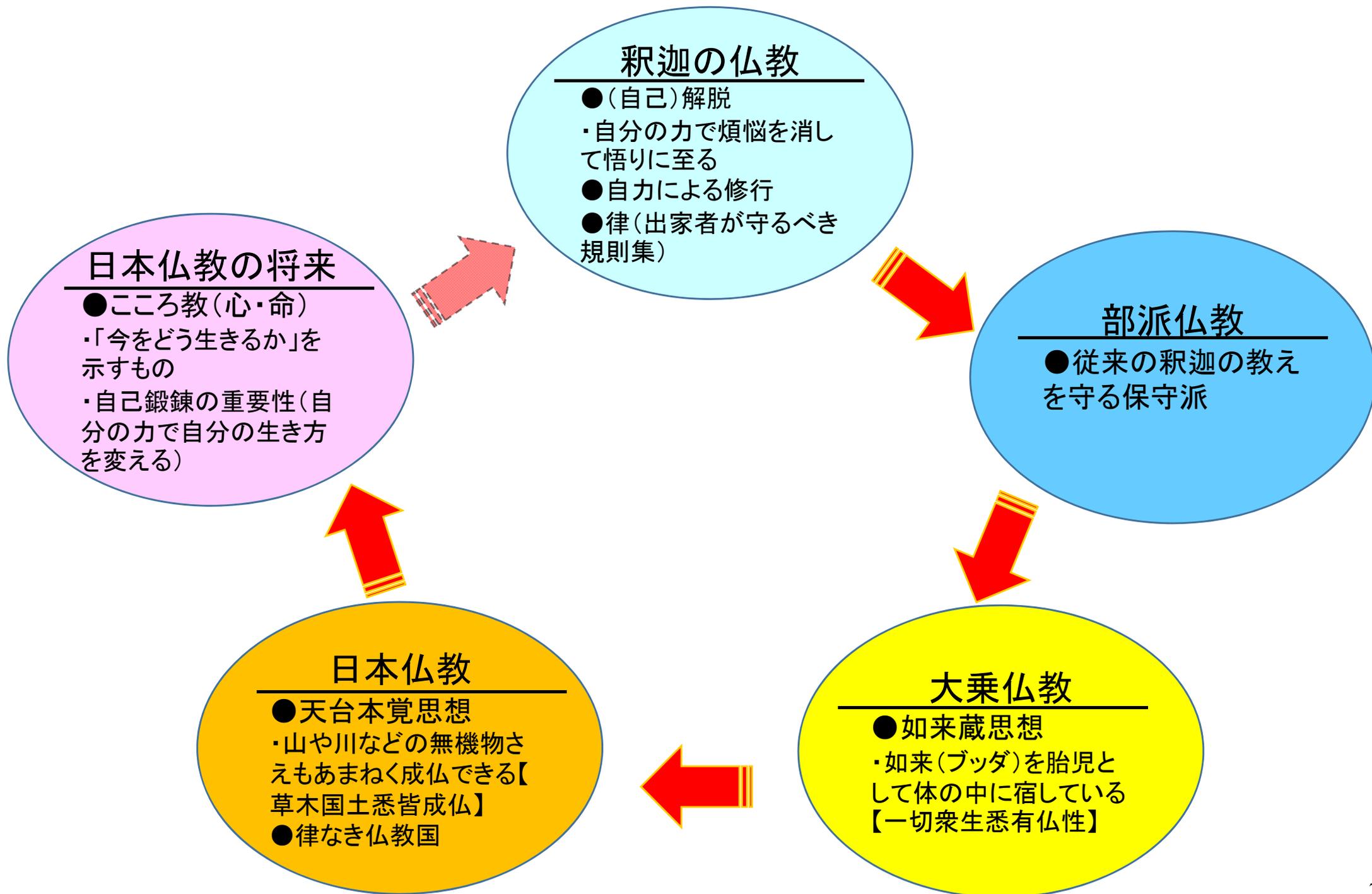
・一微塵の私たちの体内にも宇宙が広がっているという考えは、すべてのものに靈魂を感じるという、日本人古来の世界観であるアニミズムとも通じる。



▲人生哲学としての「方丈記」



▲東大寺・盧舎那仏



# まとめ：仏教のおもしろさ

## ■水循環と諸行無常

### ●水循環

・地球上の水は、太陽のエネルギーを受け、海や陸から蒸発して雲となり、雨や雪となって再び地上に振り、地下水や河川等の流れとなって、やがて海に戻っていくという循環を繰り返す。

### ●諸行無常

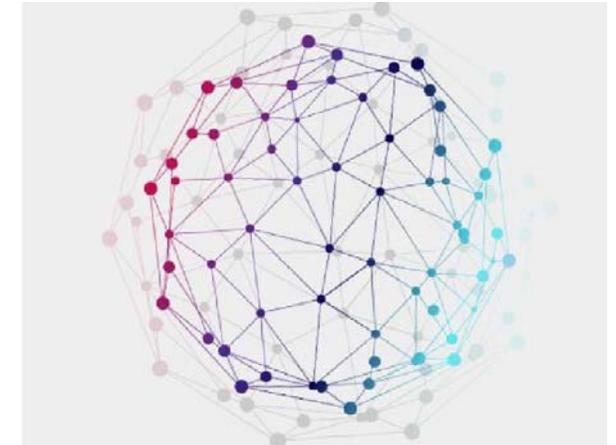
・すべてのものはつねに変化していく。生じては滅びるのが、ものごとのさだめである。



## ■パラレルワールドの世界

### ●世界は無数に存在する

●釈迦だけでなく、阿弥陀如来、大日、薬師、阿闍など、さまざまなブッダが登場。



## ■仏教の基本OS

### ●基本OS

- ・「縁起」
- ・「一切皆苦」
- ・「諸法無我」
- ・「諸行無常」

### ●ハードウェア

- ・部派仏教
- ・大乘仏教
- ・禅、浄土教、密教・・・

### ●アプリケーション

- ・宗派によっていろいろ異なる

